



TITLE:

京大広報 No. 192

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 192. 京大広報 1980, 192: 1089-1096

ISSUE DATE:

1980-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209494>

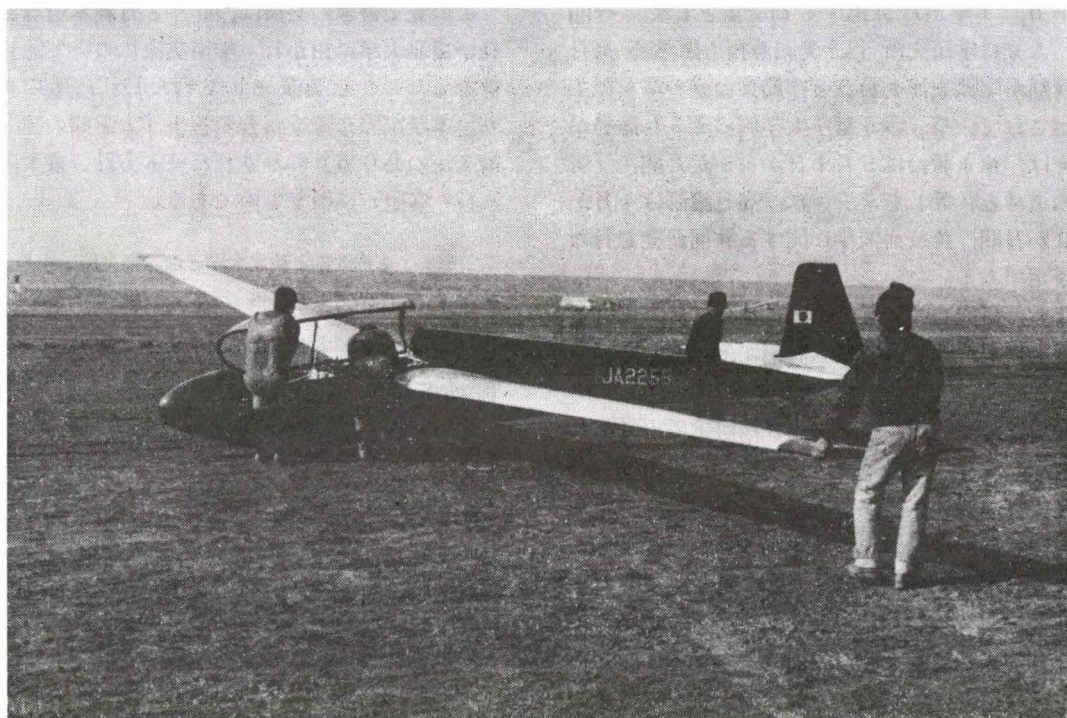
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 192

京都大学広報委員会



本学体育会グライダー部に新しく導入された「あかつき」——説明本文8ページ——

目 次

パリ第7大学との学術交流……………	2	原子炉実験所の最近の事情……………	3
韓国慶北大学との学術交流……………	2	＜随想＞	
フランス政府からの受章……………	2	情報工学科創立の頃	
岡本道雄名誉教授がドイツ連邦共和国		名誉教授 清野 武……………	4
大功劳十字章を受章……………	2	＜紹介＞	
昭和55年度の入学志願者状況等……………	3	附属教育・研究施設等の国内設置状況……………	5

＜大学の動き＞

パリ第7大学との学術交流

本学はパリ第7大学と学術交流協定を昨年11月2日締結したが（京大広報 №186 参照）、このたびそれによる研究者の相互受入れ計画が実現の運びとなった。

最初の受入れ研究者として、フィリップ・ドゥボー教授（生物物理学）が2月1日に来日され、「生体膜におけるタンパク質と脂質の相互作用」をテーマとした共同研究が行なわれている。

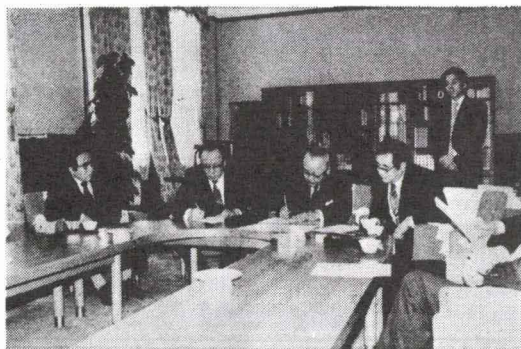
一方、本学から派遣する研究者として、今回は、人文科学研究所 福永光司教授と医学部 高月清講師が国際交流委員会と部局長会議の議を経て決定されている。パリ第7大学側の受入れ態勢が整えば、福永教授は5月1日から1か月間、「唐代の道教と仏教」をテーマに、高月講師は4月から2か月間、免疫血液学に関する共同研究を行なう予定である。

なお、研究者の相互受入れに当っては、渡航費は派遣側が、滞在費は受入れ側がそれぞれ負担することになっている。

今後は、年1～2名ずつ相互に研究者の受入れを行なうと共に、各学部、研究所から提案されている分野、研究テーマについて、研究成果・学術資料の交換等が進められる予定である。

韓国慶北大学との学術交流

2月7日、韓国大邱市の慶北大学徐 燮 珪総長が本学の招きにより来学され、沢田敏男総長との間で、両大学の学術交流について協議が行なわれた結果、下記の覚え書きが交換された。



覚え書きに調印する両大学総長

この覚え書きの交換は、昨年8月岡本道雄前総長が慶北大学に招かれ、学術交流について意見交換をしたことを契機として行なわれたものであり、本学国際交流委員会の答申「大学間の国際学術交流のあり方」に示された基本方針（京大広報 №177 参照）に沿うものである。

京都大学と慶北大学との学術交流
に関する覚え書

1979年8月、岡本道雄京都大学総長（当時）は、韓国慶北大学を訪問し、京都大学と慶北大学との学術交流に関する打合せを行い、今回はまた、慶北大学徐 燮 珪総長が京都大学を訪問し、沢田敏男総長と両大学間の学術交流について協議した。

その結果、両大学総長は、それぞれの大学の代表者として今後の学術上の交流を拡大し、両大学間の関係を深めるための協定を結ぶ意図をもって、研究と教育の領域における具体的協力を行うために最大限の努力をすることに意見の一致をみた。

京都において、1980年2月7日

京都大学総長	慶北大学総長
沢田 敏 男	徐 燮 珪

フランス政府からの受章

本学教養部鈴木昭一郎助教授に対して、フランス政府から教育功労章（l'ordre des Palmes Académiques）シュバリエ級が授与され、その授与式が2月18日、関西日仏学館で行なわれた。

この教育功労章は、教育や学術研究の面で、フランスとの文化交流に功績のあった外国人に授与される勲章である。

岡本道雄名誉教授がドイツ連邦
共和国大功労十字章を受章

このたび、岡本道雄名誉教授（前総長）に対して、ドイツ連邦共和国政府から大功労十字章（Grosses Verdienstkreuz der Bundesrepublik Deutschland）が授与された。

今回の勲章授与は、同名誉教授の研究者としての業績をたたえと共に、フンボルトの精神にの

った大学の理想の実現に努力を傾けられ、また伝統的な日独間の学術・文化交流を国際的視野から一層強固なものとされた功績に対するものとされている。

この勲章は、2月22日（金）都ホテルにおいて、ギンター・ディール ドイツ連邦共和国駐日大使から伝達され、伝達式には沢田敏男総長はじめ関係者多数が出席した。

昭和55年度の入学志願者状況等

昭和55年度第2次学力検査の実施は、3月4日（火）、5日（水）の両日に予定されているが（京大広報 No191 参照）、これに先立ち、入学願書の受理は2月9日から15日の間に各学部において行なわれ、さらに2段階選抜を行なう法学部、経済学部、理学部、医学部においては、2月19日または20日に、第1段階選抜合格者を決定し、各受験者に通知した。

学部別の入学志願者ならびに第1段階選抜合格状況は次のとおりである。

なお、表中の括弧内の数は、昭和54年度志願者

数および倍率を示す。

学 部	募集人員	志願者数	倍率	第1段階選抜合格者数
文 学 部	200	597 (732)	3.0 (3.7)	—
教育学部	50	148 (268)	3.0 (5.4)	—
法 学 部	330	795 (1,073)	2.4 (3.3)	794
経済学部	200	534 (675)	2.7 (3.4)	534
理 学 部	281	865 (979)	3.1 (3.5)	862
医 学 部	120	258 (410)	2.2 (3.4)	256
薬 学 部	80	150 (132)	1.9 (1.7)	—
工 学 部	945	1,979 (1,714)	2.1 (1.8)	—
農 学 部	300	425 (548)	1.4 (1.8)	—
計	2,506	5,751 (6,531)	2.3 (2.6)	

＜部局の動き＞

原子炉実験所の最近の事情

原子炉実験所をめぐる諸問題については、昨年10月15日付け京大広報号外をもって詳細を説明したが、ここにその後の経過について説明する。

原子炉実験所（以下「実験所」という。）では、上記広報の内容を、熊取町、泉佐野市、貝塚市当局等に説明し、理解を得るよう努力を続けてきた。昭和55年1月16日に行なわれた大阪府原子炉問題審議会（以下「審議会」という。）においては、実験所周辺で⁶⁰Co（コバルト-60）等の放射性物質が検出された問題について、次のようなとりまとめが行なわれた。

京都大学原子炉実験所周辺の一般公衆
の安全確保について

京都大学原子炉実験所（以下「実験所」という。）周辺でコバルト-60等の放射性物質が検出された問題については、当審議会では、審議の参考とするため、当審議

会の指示により実験所が実施した調査の結果及び熊取町が独自に大阪府立放射線中央研究所に委託して実施した調査の結果について、科学技術庁に安全評価を依頼していたが、先般同庁から、実験所から放出される排水に含まれる放射性物質は極めて微量であり、安全上支障がない旨回答があった。

当審議会としては、放射線障害を防止し、原子炉の安全性を確保するための監視機構として設立された趣旨に鑑み、今後とも実験所周辺の環境放射能監視を充実強化するという観点に立って、次の諸点を実験所に要請することとする。

第1に、今後の環境放射能測定については、従来の全ベータ測定とともに、今後定例的に核種別の測定を実験所において実施すること。

第2に、核種別の測定結果についても、審議会に報告すること。

第3に、審議会へ報告されたこれらの内容については、実験所において地元住民への周知を図ること。

以上のことについて、当審議会は、原子炉の安全性の確認と住民の安全確保に一層努めていくこととする。

附属研究施設等一覧（京都府を除く）



○印は京大広報で紹介済の施設

以下左端の番号は上掲地図上の番号に対応する。なお括弧内の番号は記事掲載広報の号数を示す。

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 (演) 北海道演習林 (標茶区) (No.160) | 6 (防) 上宝地殻変動観測所 |
| (北海道川上郡標茶町多和) | (岐阜県古城郡上宝村本郷) |
| 2 (〃) 北海道演習林 (白糠区) (No.160) | 7 (〃) 穂高砂防観測所 |
| (北海道白糠郡白糠町和天別) | (岐阜県古城郡上宝村中尾) |
| 3 (防) 大潟波浪観測所 | 8 (理) 天文台・飛騨天文台 (No.180) |
| (新潟県中頸城郡大潟町四ツ屋浜) | (岐阜県古城郡上宝村蔵柱) |
| 4 (〃) 北陸微小地震観測所 | 9 (霊) サル類保健飼育管理施設 (No.157) |
| (福井県鯖江市下新庄町下北山) | (愛知県犬山市官林) |
| 5 (理) 木曽生物学研究所 | 10 (理) 琵琶湖古環境実験施設 |
| (長野県木曽郡木曽福島町) | (滋賀県高島郡高島町大字永田) |

- 11 (理) 大津臨湖実験所
(滋賀県大津市下阪本)
- 12 (〃) 逢坂山地殻変動観測所
(滋賀県大津市逢坂)
- 13 (〃) 阿武山地震観測所
(大阪府高槻市奈佐原)
- 14 (〃) 地震予知観測地域センター
(大阪府高槻市奈佐原)
- 15 (場) 高槻農場 (本場) (No.159)
(大阪府高槻市八丁噺町)
- 16 (原) 原子炉医療基礎研究施設
(大阪府泉南郡熊取町野田)
- 17 (〃) 原子炉応用センター (No.130)
(大阪府泉南郡熊取町野田)
- 18 (防) 屯鶴峯地殻変動観測所
(奈良県北葛城郡香芝町穴虫)
- 19 (理) 大宇陀観測所 (No.138)
(奈良県宇陀郡大宇陀町)
- 20 (演) 和歌山演習林 (No.160)
(和歌山県有田郡清水町上湯川近井)
- 21 (〃) 白浜試験地 (No.160)
(和歌山県西牟婁郡白浜町立ヶ谷)
- 22 (理) 瀬戸臨海実験所
(和歌山県西牟婁郡白浜町)
- 23 (防) 白浜海象観測所
(和歌山県西牟婁郡白浜町堅田畑崎)
- 24 (農) 亜熱帯植物実験所
(和歌山県西牟婁郡串本町須江)
- 25 (防) 潮岬風力実験所
(和歌山県西牟婁郡串本町潮岬)
- 26 (〃) 鳥取微小地震観測所
(鳥取県鳥取市円護寺公園墓地内)
- 27 (演) 徳山試験地 (No.160)
(山口県徳山市徳山鉢窪)
- 28 (理) 徳島地震観測所
(徳島県名西郡石井町石井前山)
- 29 (防) 徳島地すべり観測所
(徳島県三好郡池田町洲津)
- 30 (理) 火山研究施設
(熊本県阿蘇郡長陽村)
- 31 (〃) 地球物理学研究施設
(大分県別府市野口原)

- 32 (防) 宮崎地殻変動観測所 (No.136)
(宮崎県宮崎市加江田深田)
- 33 (霊) 幸島野外観察施設
(宮崎県串間市市木吹切)
- 34 (防) 桜島火山観測所 (No.165)
(鹿児島県鹿児島郡桜島町横山鶴崎)

京都府に設置の附属研究施設等

- (文) 陳列館……………本部構内
- (法) 国際法政文献資料センター……………〃
- (理) 天文台・花山天文台
……………山科区北花山大峰町
- (〃) 植物生態研究施設……………北部構内
- (〃) 機器分析センター (No.137) …… 本部構内
- (〃) 地磁気世界資料解析センター (No.176)
……………北部構内
- (〃) 上賀茂地学観測所
……………北区上賀茂本山
- (〃) 気象学特別研究所
……………左京区下鴨今井町
- (〃) 植物園……………北部構内
- (医) 皮膚病特別研究施設……………病院西部構内
- (〃) 脳神経研究施設……………医学部構内
- (〃) 免疫研究施設……………〃
- (〃) 動物実験施設 (No.139) …… 〃
- (〃) 先天異常標本解析センター……………〃
- (〃) 総合解剖センター……………〃
- (薬) 薬用植物園 (No.178) …… 薬学部構内
- (工) オートメーション研究施設 (No.185)
……………宇治構内
- (〃) 電離層研究施設 (No.172) …… 〃
- (〃) イオン工学実験施設 (No.181) ……本部構内
- (農) 牧場 (No.182)
……………船井郡丹波町富田蒲生野
- (〃) 農業簿記研究施設 (No.145) ……北部構内
- (〃) 農薬研究施設……………〃
- (〃) 植物生殖質研究施設
……………向日市物集女町中条
- (〃) 水産実験所……………舞鶴市長浜
- (場) 京都農場 (No.159) ……北部構内
- (演) 本部試験地 (No.160) …… 〃

- | | |
|-------------------------------------------|--------------------------------|
| (演) 芦生演習林 (No.160)
.....北桑田郡美山町芦生 | (木) 木材防腐防虫実験施設.....宇治構内 |
| (〃) 上賀茂試験地 (No.160)
.....北区上賀茂本山 | (防) 宇治川水理実験所
.....伏見区横大路下三栖 |
| (化) 原子核科学研究施設
.....左京区栗田口鳥井町 | (〃) 防災科学資料センター.....宇治構内 |
| (〃) 新無機合成開発施設.....宇治構内 | (〃) 水資源研究センター (No.158) ... // |
| (人) 東洋学文献センター (No.141)
.....左京区北白川東小倉町 | (ウ) ウイルス診断研究施設.....病院西部構内 |
| | (〃) ウイルス感染動物実験施設... // |
| | (数) 数理応用プログラミング施設.....北部構内 |

＜表紙写真説明＞

このたび、本学グライダー部念願の複座機アレキサンダー・シェライハー、ASK-13が導入され、2月26日日本学生航空連盟木曽川滑空場（岐阜県羽島市木曽川）において、翠川 修学生部長はじめグライダー部員・OB等関係者多数出席の下に、命名式が行われた。

同機は、全長8.18メートル、全幅16メートルの複座式練習機で、沢田敏男総長により「あかつき」と命名された。